

1. 遺跡名 大久保C遺跡・大久保D遺跡  
(おおくぼ) (おおくぼ)
2. 所在地 茅ヶ崎市芹沢  
(県立茅ヶ崎里山公園内)
3. 時代 縄文時代・古墳時代
4. 調査概要

県立茅ヶ崎里山公園の整備工事に伴い2遺跡の発掘調査を行っています。遺跡は高座丘陵に位置し、周辺の地形は小出川などの支流により開析された小支谷が樹枝状に形成され、複雑な地形を呈しています。大久保C遺跡もこうした小支谷に面しており、谷に落ち込む斜面地と台地とに分かれた範囲に広がる遺跡です。

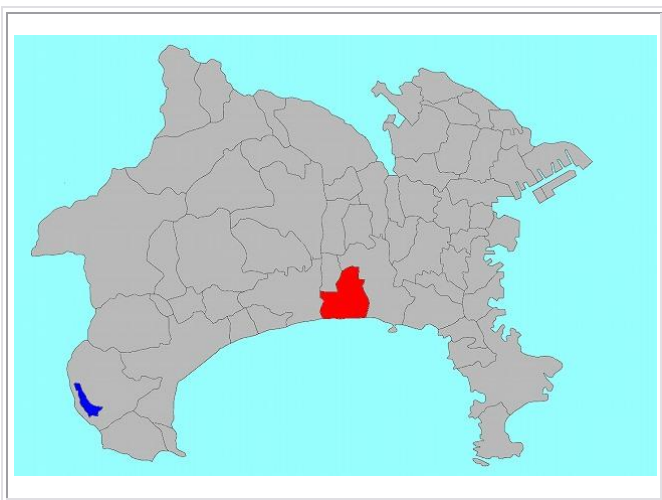
一昨年度に茅ヶ崎市文化振興財団が隣接地を調査した結果、斜面地から横穴墓が3基(うち1基はかながわ考古学財団が調査)、台地上には縄文時代中期の竪穴住居址が数多く発見されました。今回の調査でもこれら集落や横穴墓の続きが発見されることが考えられます。

大久保D遺跡は大久保C遺跡の接する谷の谷頭に位置する遺跡で、やはり隣接地を茅ヶ崎市文化振興財団が発掘調査をしています。

調査の結果、斜面地には埋没谷が確認され、台地上にはその埋没谷を囲むように縄文時代中期の竪穴住居址や土坑が数多く発見されました。

この茅ヶ崎市の調査結果のとおり、その続きとなる竪穴住居などの遺構が本調査区内でも見つかっております。埋没谷では縄文時代中期の土器片、石器が大量に発見されており、当時の人々が谷に不要となった土器などを廃棄したものではないかと考えています。

いずれにせよ、両遺跡は遺跡名こそ分かれています、縄文時代には谷を囲むように集落が展開されていたものと思われ、同じ集団の人々が残した生活の痕跡であると考えられます。





大久保D遺跡 全景



大久保D遺跡 3号土坑